

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」金沢ベイエリア校		
○保護者評価実施期間	2024年11月16日		～ 2024年12月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2024年11月25日		～ 2024年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年1月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・静的、動的活動の切り替えができ、児童に合わせた支援を提供できること	・活動に合わせて、フロアと個室を効果的に使用している ・安全面に気をつけ、遊具の諸読や点検を行っている	・保育士資格を持っていない職員も先輩職員から教えてもらいながら、支援をしていくための学びを深めていく
2	・保育士資格を持った職員が中心となり専門的な支援を行っている	・児童に合わせた教材を日々考え、提供できるようにしている	・よりよい支援を行っていくために事業所内での話し合いを行い、支援プログラムを工夫する
3	・信頼関係を築くことができているため、金沢こども医療福祉センターや相談支援専門員より紹介をいただくケースが多い	・リハビリの担当者や園との情報共有、連携を行っている	・情報共有したことを支援に活かしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童の支援内容に関して情報共有できていない部分もある	・未就学の児童の支援に関しては担当の保育士が対応しており、部分的に共有できていないことがある	・モニタリング会議だけではなく、日々の支援について、小学生以上の児童の支援担当職員であっても理解を深められるようにしていく
2	・地域との連携が難しい	・個別支援を行っている事業所のため地域との連携をどう行っていくかが課題である	・きらりひろば等のイベントには過去に参加いただいたケースはあるので、そういった機会に参加していただける機会を考えていく
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」金沢ベイエリア校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

10

回収数

6

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	0	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	0	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4	1	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5	1	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	1	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	2	0	0		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	0	5	0		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	1	3	1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	5	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2	3	1	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	0	0	1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	2	1		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2	2	0	2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	2	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	2	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	1	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1	1	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	0	0	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4	1	0	1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	5	1	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」金沢ベイエリア校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個室が3室と広いフロアがあり、児童の特性に合わせて使用している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童一人に対して、1対1で児童の特性に合わせて対応している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		掲示物は児童の刺激にならないように配慮している。玄関は段差があるが、借りている物件のため、バリアフリー化の予定はない。現在、通われている方に関しては問題なく、利用されている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日々、清掃、整理整頓し、1時間ごとの消毒、換気を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室が3室と広いフロアがあるため、必要に合わせて支援に使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		随時ミーティングを行い、必要に応じて業務改善を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事業所内で内容を確認し、話し合い、結果をホームページで公開している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		業務を進めていく中で気がついた時に気がついた職員が問題提起をし、話し合いを行って、改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者評価は現在行っていないが、検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間通して発達支援研究所の研修を受け、事例検討会も行っている。また、外部研修にも参加している。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		適切に支援プログラムを作成しており、公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者様との面談の中でアセスメントシートを作成し一人一人の特性に合わせて計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童に必要な内容を選択し、支援計画を作成している。また、その上で療育プログラムを作成し、支援を行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿って療育プログラムを作成し、支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		会社で決められたツールを使用し、記録を行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域を意識し、個別支援計画を作成し、支援を行うプログラムを作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児発管と担当指導員、他指導員がモニタリングを行い、プログラムを立てている。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		成長や興味などに合わせて、内容を考え、楽しんで活動できるように工夫している。ある程度固定化した方がよい場合は、一定期間固定化している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		ふだんは個別療育だが、希望される方は、月1回程度行っている小集団のきりぎりばで集団活動を経験している。計画にその旨記載されている児童もいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前日までもしくは朝礼で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼やその日の記録で確認している。また、次の支援までに情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々記録を行い、支援の検証、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的（6か月ごと）にモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童の発達や通園先、保護者様のことが分かる児発管、時には指導員も一緒に参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保健センター、金沢こども医療福祉センター、地域支援室等、必要に応じて情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		希望される方には利用されている園との情報共有を行い、相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		希望される方には情報共有をさせていただいている。今年度も行う予定である。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		情報共有を行っており、研修にも参加している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		個別療育のため機会を作るのが難しいため、特にそのような機会は作っていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者様と支援後に話し、共通理解をできるようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		相談支援を行い、必要な方にはペアレント・トレーニングもさせていただいている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧な説明を行っている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者様と相談の上、支援計画を作成している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援内容についてご説明し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日々の支援の際やモニタリングの時にご相談を受けることがあり、その都度相談支援として応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		きらりひろばと同時開催で保護者相談として交流をさせていただいた。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		できる限り迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ブログとInstagramを活用し、発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		書類については、鍵のかかる書庫で管理している。個人情報につきましては、行政や相談支援事業所等、会社への情報提供、共有等で注意して扱っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		それぞれの特性に合わせた配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の方が参加できるイベントは現在行っていないが、きらりひろばに問い合わせがあった方には参加いただいている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		それぞれマニュアルがあり、訓練を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月、訓練を行っており、年2回は児童、保護者様参加で行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		面談の際に確認し、アセスメントシート等に記載している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	○	支援中に食べ物を提供していない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修や訓練等を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画についてはこういったものがあるということをご簡単にご説明している。また、LINEを活用し、一斉に情報発信ができるようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を作成して共有し、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		1年に1回行政主催の研修に参加し、事業所内でも研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を行う児童はいないが、重要事項説明書に記載されており、必要な場合は了承を得て支援計画に記載することになっている。		